

妙高火打山・山スキー登山(2009.3.20-22)

3月20日(金)~22日(日)の連休に、妙高高原から入山して火打山(2246m)にスキーで登山してきましたので報告します。今回の山スキーは年末の乗鞍岳以来の今シーズン2回目でした。後立山側から何時も遠くに眺めてきた妙高山、火打山などの頸城山塊には是非行ってみたいと思っていたところ、和田さんには経験のある積雪期に、黒沢池ヒュッテに設営したテントをベースにして、快晴のなか火打山を往復することが出来ました。

◎ メンバー:L 和田穰二、青景平昌(写真、記録)

◎ 日時:2009年3月19日(木)~3月22日(日)

3月19日: 町田発(22:30)

3月20日: ランドマーク妙高高原着(2:45) → 仮眠 → 発(9:10)

妙高杉ノ原スキー場第一駐車場 → 杉ノ原ゴンドラ山麓駅 →

三田原第3高速リフト トップ(1855m) → 三田原山 → 黒沢池ヒュッテ

3月21日:黒沢池ヒュッテ → 茶臼山 → 天狗の庭 → 火打山(2456m) 往復

3月22日:黒沢池ヒュッテ → 三田原山 → 2300mのピーク →池の峰付近林道 →

杉野沢バス停 → 駐車場 → ランドマーク妙高 → 横浜着(21:40)

3月19日(木):町田発(22:30)ーランドマーク妙高着(2:45)

和田さんと合流して、青景車にて町田を22時30分に出発。八王子→関越自動車道→長野自動車道経由で、妙高高原ICで高速道路をおりる。高速道路通行料の深夜割引を利用した移動である。4時間程度のドライブで、仮眠場所の「ランドマーク妙高高原」に着く。この施設には仮眠室のほかに温泉があり、24時間営業している。天気予報によれば、天候には恵まれそうになく、火打山に登る21日に一次的に回復するとの予報に期待した。ドライブ中には降雨はなかったが、到着してすぐに雨が落ち始めた。

3月20日(金):ランドマーク妙高高原発(9:00)ー妙高杉ノ原スキー場第一駐車場(9:10)ー杉ノ原ゴンドラ山麓駅(9:30)ーリフトのトップ(1885m)(10:20)ー三田原山稜線(12:40)ー黒沢池ヒュッテ(16:00)

7時頃に目覚めると本格的な降雨となっており、仮眠場所は連休を当てにして集まった若いスキー客の雨宿りでごった返していた。とにかく天候が回復するのを待つことにし、ゆっくり朝食を取ることにした。

幸いにも、2時間程度待機していると雨は上がってきたので、妙高杉ノ原スキー場に向う。今年は特に積雪が少なく、既に一部リフトも営業停止の状態であり、駐車場もガラガラであり、シーズンの終わりを感ぜさせる。駐車場で入山の準備を整え、ゴンドラの山麓駅から出発した。途

中で三田原第3高速リフトに乗り継いで、一気に1885mのリフトトップに着いた。ここからシール登高の開始となる。シールの貼付けをやっている間にもどンドン山スキーに向うパーティーが上がってきた(写真1)。



写真1 リフトトップ

ガスがかかっているが、先行のトレースに従って、10時20分にスタートした。20分程度行ったところで上部に岩壁を持つ沢を横断するが、雪崩が頻繁に発生することで有名な沢らしい。十分な間隔をとって急な斜面をトラバースする。森林帯に入ってしばらくゆくと、行く手を雪底のような段差のある沢に阻まれたので、ここから稜線に向けてジグザグに直登した。12時40分にガスに包まれた妙高山の外輪山の稜線に到着した(写真3)。風で流されるガスの合間に一瞬妙高山の輪郭を確認できたが、風が強いので直ちに外輪山の稜線を三田原山に向けて出発した。三田原山の途中で、笹ヶ峰方面に向けて滑る準備をしているパーティーに会った。リフトトップからシール登高していた殆どのパーティーは、どうやら外輪山の斜面を滑って降りるようである。そういえば、荷物の大きさがぜんぜん違っていた。



写真2 外輪山の稜線にて

三田原山のピークがどこなのかよく分らなかったが、稜線が下り始めたのでピークを通過したことを知った。とりあえず、シールをはずして稜線を外れないように下ることにしたが、重い荷を担いで森林帯のなかを滑走する技術がないので、スキーでステップを切りながら黒沢池ヒュッテに向けてトラバースしながら降りていった。

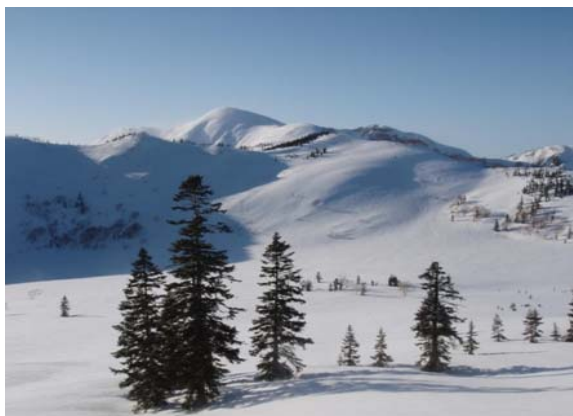


写真3 黒沢池雪原の向こうに火打山を望む

途中で、天候が急激に回復し視界が開けてきた。2251mのピークの手前に樹林のない沢が黒沢池に向って伸びているのが確認できたので、これを降ることにする。楽しい滑走を期待

したが、技術以上の荷物を担いだ上にモナカ状の雪に足をとられ、無残にも転倒を繰り返すことになってしまった。今回はヘルメットを持参したが、山スキーには必需品だと思われた。すっかり疲労困憊した状態で傾斜の緩やかところ辿りついた。黒沢池の雪原の向こうに茶臼山の斜面があり、さらに遠くに火打山が望まれた(写真3)。ここからヒュッテに向けて再びトラバースで移動した。ドーム屋根に特徴のある黒沢池ヒュッテを下に見下ろす尾根から、16時にやっとヒュッテに降り立った(写真4)。黒沢池ヒュッテは、冬季に避難小屋として開放されている筈として、これを利用する計画としたが、驚いたことに入りは雪の下に隠れて利用している形跡は全くなかった。後日下山して調べてみると、避難小屋として利用できるのは高谷池ヒュッテのみで、黒沢池ヒュッテには冬季利用の情報は見当たらなかった。今回の山行では、ツェルトの代わりに二人用の夏テントを持参していたので事なきを得た。年齢のせいかわ、チェックが甘くなっているのかも知れない。テントの中で不要なものを出して狭いテントにもぐりこむ。



写真4 黒沢池ヒュッテ (21日撮影)



地図1 リフトトップから黒沢池ヒュッテのトレース

3月21日(土): 黒沢池ヒュッテ(7:30)ー茶臼山(8:40)ー火打山(12:10)ー天狗の庭(13:30)ー
茶臼山のコル(14:30~15:00)ー黒沢池ヒュッテ(15:15)

目を覚ますと待望の快晴であった。ヒュッテから茶臼山に向かって広い尾根をジグザグに登っていった。高度を上げるにつれて、外輪山の陰から妙高山が徐々に顔を見せてくる。昨日、ガスでよく分からなかった外輪山の様子も手にとるように見える(写真5)。外輪山は森林帯をトラバースするよりは、三田原山を越えたところの沢を黒沢池まで真直ぐ下って、黒沢池の緩い斜面をヒュッテまで行くのがベストルートと思われた。茶臼山の登りでは、部分的に表面が氷結しているので、途中でスキーアイゼンをつけて、一路火打山を目指して稜線を辿ることにする(写真6)。茶臼山の登りでは、黒沢池の雪原の南側に高妻山が聳えていた(写真7)。茶臼山を越えると、眼下に高谷池の雪原とヒュッテが見え、かなたに後立山連峰の雪稜が遠望できる(写真8)。深い雪にべっとり覆われた火打山をバックに、ゆったりとした雪原が広がっている。雪煙を上げている火打山の東面は吹き溜まりの斜面で、登りのトレースの脇を先行パーティーが滑走しているのが見える。上手く滑って降りられるだろう

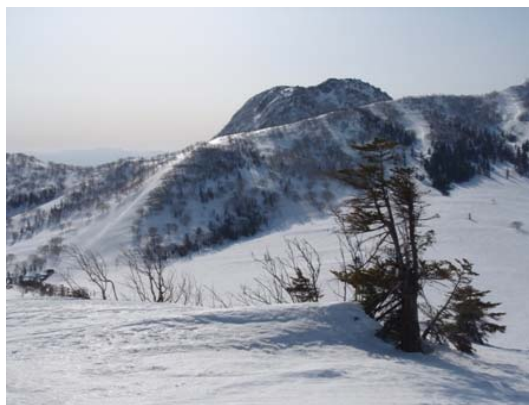


写真5 外輪山から妙高山が顔を出す



写真6 茶臼山の登り



写真7 茶臼山の斜面からみた高妻山

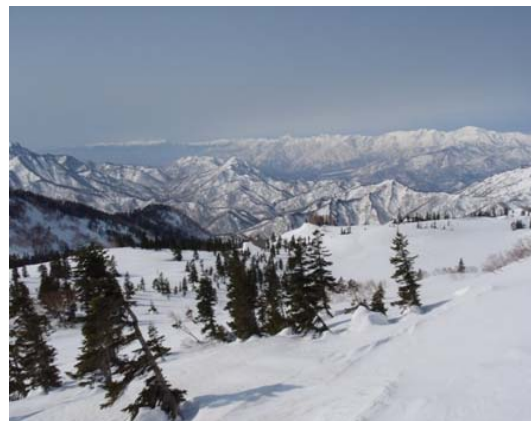


写真8 高谷池雪原と後立山連峰望む



写真9 火打山の基部から妙高山を望む



写真10 火打山の斜面から高妻山を望む



写真11 火打山の頂上



写真12 火打山から焼山を望む

かと不安は募るが、転倒しても滑落はなさそうである。風下の斜面から頂上に回り込むと、まともに季節風を受けて話もできない。写真を撮って、早々に風下の斜面に降りて滑走の準備をする。頂上は360度の展望が開けている(写真9~12)。ここまでスキーを上げたら、もはや滑って降りるしかあるまいと腹を決めてスタートする。先行パーティーのように華麗には行かないが、転倒の合間に休憩しながら、ゆっくり下降して行った(写真13)。上手い人は、



写真13 火打山の東面斜面

火打山の頂上から天狗の庭まで10分程度で一気に滑走するところを、我々は休みながら1時間程度かけて降りたことになる。気が付けば火打山の頂は遥か遠くに見えており、スキーの機動性の高さは実に楽しいものであった(写真14)。天狗の庭で再びシールをつけて、茶臼山の

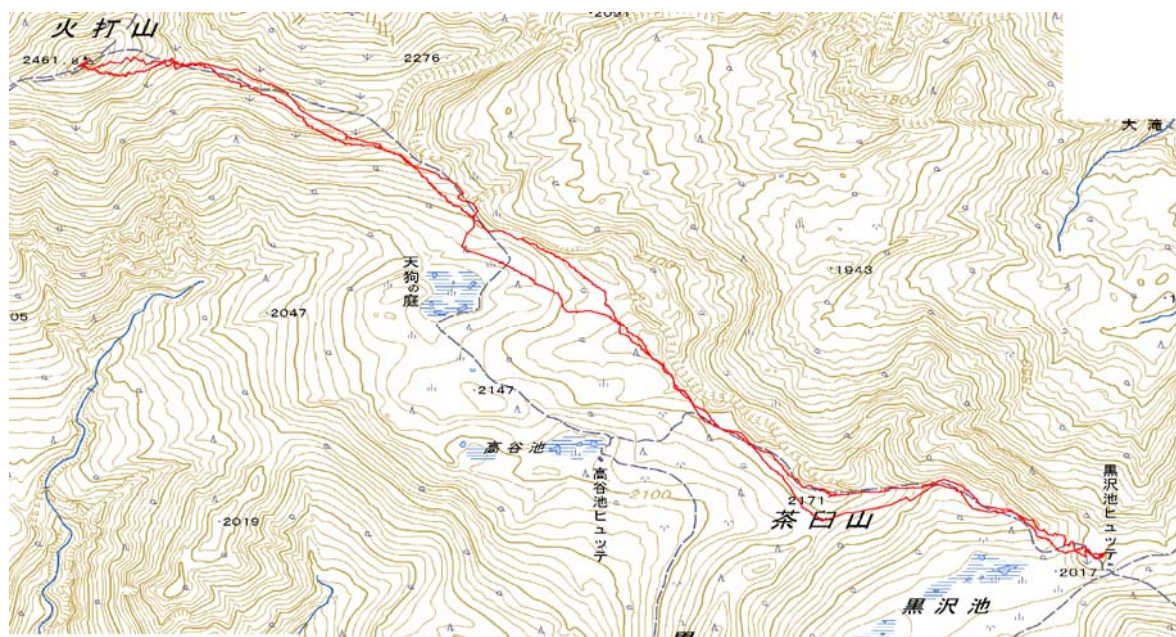
コルを目指した。茶臼山のコルからテントまでは本日最後の滑走となる。妙高山と外輪山を眺めながら、下山ルートを確認した(写真 15)。明日の天候は期待できない。休憩中に、妙高山の周りをヘリコプターが執拗に旋回しはじめ、我々の上にも飛んできた。事故でもあったのだろう。3時過ぎにテント着、快晴のなかで山スキーを満喫した。



写真 14 天狗の庭から火打山を望む



写真 15 茶臼山のコルから妙高山を望む



地図 2 黒沢池ヒュッテから火打山往復のトレース

3月22日(日):黒沢池ヒュッテ(6:10)－三田原山の稜線(9:00)－笹ヶ峰林道(14:40)－スキー場リフト(14:55)－杉野沢バス停(15:30)－第一駐車場(15:40)

下山ルートは、昨日の偵察の通り、三田原山から伸びる沢の出会いまで黒沢池を遡ることにした(写真 15)。出合までの傾斜は、荷物を担いで滑るには適当な斜面と思えた。沢の出合から、三田原山をまくようにトラバース気味に幾つか小さな沢を横断して登っていった。稜線にでる手前で、天候は急変してガスがかかり、突風で氷雪が横なぶりに飛んでくる事態となった。雪面も氷結してきたので、斜面の途中でスキーアイゼンをつけた。稜線はホワイトアウト状態で、注意しないと和田さんをも見失う状態となった(写真 16)。前線が通過しているのだろう。突風は3点支持でやり過ぎすしかない。途中で、ガスのなかから数人のパーティーが突如現れた。その中の一人が「遭難した人ですか」と聞いてくる。「まだ遭難しておりません」と答えたが、和田さんを見つけて2人組だと分ったとたんに、「途中で誰かに会いませんでしたか」と問われた。スキーを履いたもの、スキーを担いだもの、スノーシューを履いたものと、てんでんばらばらの装備のにわか作りの一団であったが、ヘルメットには上越市消防署と書いてあった。聞けば、昨日妙高山の大正池付近で3人パーティーが遭難したので、その救助に向っているとのこと。昨日のヘリコプターはその捜索のためだったと分った。そのパーティーの1人とこの稜線で待ち合わせていたようである。さらに先に進むと2人組みと会ったが、彼らも捜索隊員で、先と同じ質問をした。さらに先に進むと、ガスの中を単独登山者が声をあげながら近づいてきた。こんどは「捜索隊に会いませんでしたか」と聞いてきた。捜索隊が探していたその人であった。猛烈な風雪の中、捜索隊を遭難者が追っかけるのはまずかろうと、下山して連絡をとることを勧めた。携帯電話を使わしてほしいと要望されたが、残念ながら圏外であった。聞けば、3人パーティーで入ったがそのうちの一人が滑落してすでに死亡しており、一人が付き添ってビバーク中であり、自分は連絡を取りに稜線に上がってきたとのこと。そのときテレマーカーの2人組みが通りか



写真 15 黒沢池の雪原を遡る



写真 16 強風の外輪山稜線にて

かったので、我々の下山には相当の時間が必要と思われたので、彼らと一緒に下山することを勧めた。

外輪山の 2300mからの降りは、ガスのなかでステップ切りながら慎重に降った。樹林帯で傾斜が緩くなって初めてシールとスキーアイゼンをはずした。後は、先行のシュプールを辿って高度を下げた。途中スキー場方面へのトラバースを試みたが、沢を横断する箇所ですキーを担いで登るなど難儀し、相当時間を



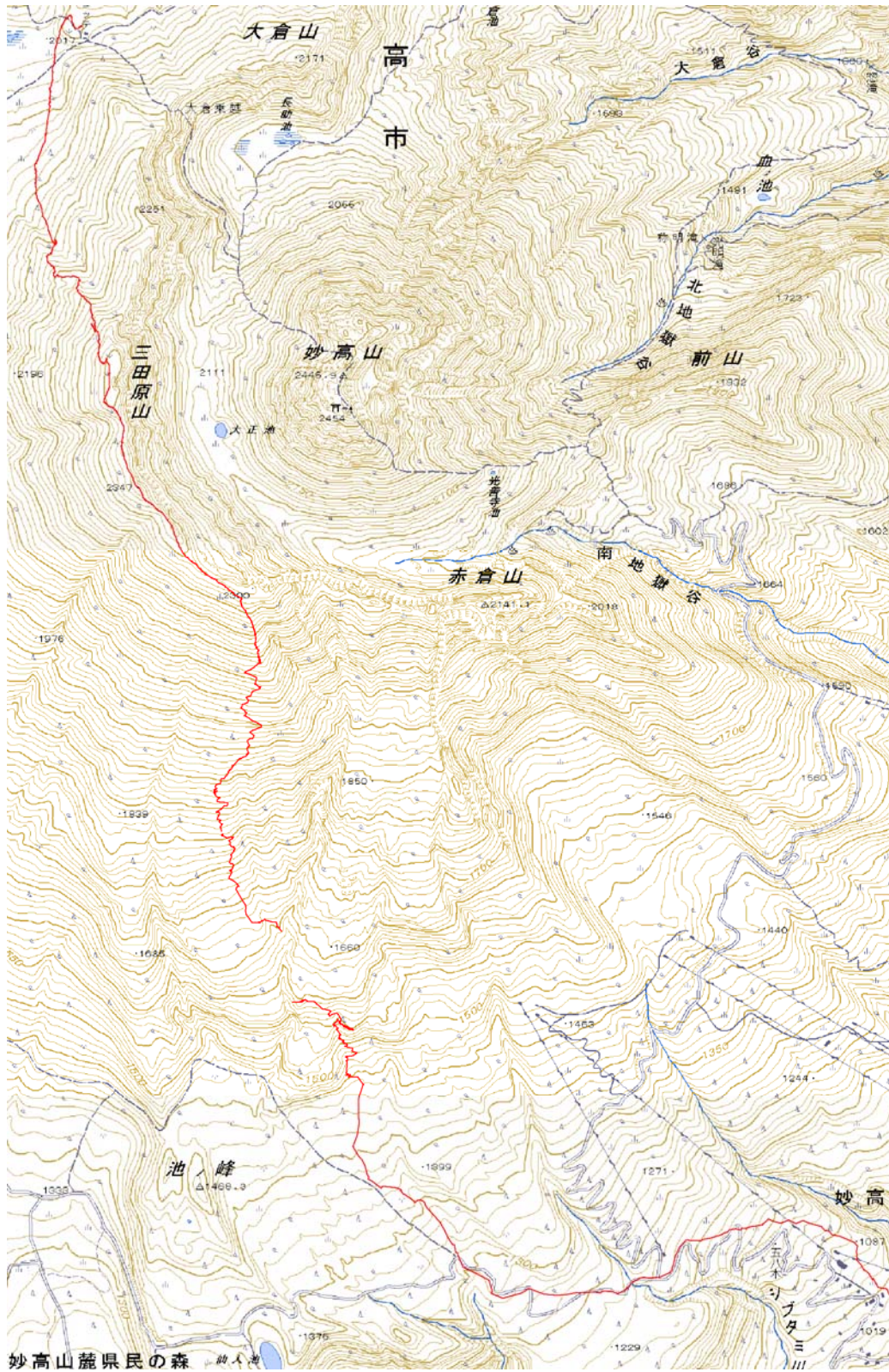
写真 17 樹林帯を下山する

浪費してしまった。正解は、まっすぐ滑って降りれば周回の林道に合流するのでこれを通してスキー場に帰ることができることが、後から分かった。スキー場は悪天候のため閉鎖され、人はいなかった。圧雪したままのゲレンデを杉野沢のバス停に向けて滑走した。ここから無料の周回バスに乗って駐車場まで移動することができた。

駐車場では、例の遭難者の家族が救急車の周りで待機し、捜索隊の下山を待ちわびていた。稜線であった人はすでに下山していた。テレビの報道によれば、捜索隊は現地に遺体を残して下山し、天候の回復を待つて収容するとのことであった。

結果的には、幸運にも天候に恵まれ、予定通り火打山を往復できたことに感謝しつつ、ランドマーク妙高高原の温泉に寄って汗を流して帰路についた。

以上



地図3 黒沢池ヒュッテから妙高杉ノ原スキー場までのトレース